

乳児期の顔湿疹とヘルペス症状を経験した小児アトピーの経過 (2歳男児)

症例 ID：001-02-EMa | 記録日：不明

1. 診断・治療前経過

生後5か月頃から顔の湿疹が強くなり、掻いては血や汁が出て、かさぶたができる状態を繰り返しました。近医で薬を処方されましたが、症状はなかなか落ち着きませんでした。

生後6か月を過ぎた頃、ジュクジュクした顔にヘルペス症状と発熱が重なり、T病院に入院しました。入院中は点滴を受け、顔はガーゼで覆われました。母乳をやめて粉ミルクへ変更し、離乳食では卵・牛乳を除く対応もありました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	ステロイド使用歴がありますが、使用薬剤・期間は不明です。
製品名	不明。
強度	不明。
使用期間	不明。
中止時期	不明。
来院前／後	来院前の使用歴があります。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
生後5か月頃	来院前	顔の湿疹が強くなり、掻破、血、汁、かさぶたを繰り返しました。
生後6か月過ぎ	来院前	顔のジュクジュクにヘルペス症状と発熱が重なり、入院しました。
その後	来院前	鍼治療や漢方療法にも通いましたが、症状は落ち着きませんでした。
松本医院受診後	治療開始後	漢方の煎じ薬、消毒、軟膏などを続け、ジュクジュクした顔は乾いていきました。
その後	経過後半	ジュクジュクした皮膚に戻ることはないと感じられる状態になり、食事や生活への制限感も減りました。

4. ピーク時期

症状が強かった時期は、生後6か月過ぎに顔のジュクジュク、ヘルペス症状、発熱が重なり入院した時期です。

5. 困りごと

- 顔の浸出と掻破が続き、痕が残るのではないかという不安がありました。
- 入院中は点滴につながれ、顔がガーゼで覆われる状態でした。
- 母乳中止、除去食、肘を曲げにくくするバンドなど、日常の管理負担が大きくなっていました。

6. 経過のまとめ

生後 6 か月過ぎに顔のジュクジュクとヘルペス症状、発熱で入院した時期を経ましたが、松本医院受診後は漢方、消毒、軟膏を続け、顔のジュクジュクは乾いていきました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。